

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育力・組織力・企画力を構成要素とする「学校力」のさらなる向上を図ることにより、生徒一人ひとりの個性・能力を最大限に伸ばすとともに、自ら目標を定め、その実現に向けて全力で努力する生徒を育てる。
1. 学習指導・進路保障体制の一層の充実により、「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」をめざす
2. 主体的・自律的な努力を怠らず、自己の向上に努める生徒を育成する、「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」をめざす
3. 自己表現力、コミュニケーション能力を育て、国際社会で活躍する人材を育成する、「グローバルに考え、行動する学校」をめざす

2 中期的目標

【未来をひらこう颯爽と】 → 本年度で64年の歴史を刻む本校は、これまでのよき伝統を継承して、さらなる発展をめざし、生徒が未来に向けて「颯爽」と（校歌の一節「颯爽たり 枚方」に因む）飛躍、世界規模で活躍していくことを願って、中期的目標の冒頭にこの言葉を掲げる。 1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現に向けて (1) 生徒一人ひとりが自己実現を果たすための「確かな学力」を身に付けるよう、全教員が「授業改善」に取り組む。 ・学習指導要領の改訂の趣旨及び内容を踏まえ、国や大阪府の様々な教育改革や動向にも応じられるよう、「枚高マップ」の令和7年度までの実践を踏まえ、8年度からの充実をめざす。 ・各教科において、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし「観点別学習状況の評価」を進めるとともに、これまでの教育実践にICTを効果的に取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせること等により、学びの深化を図る。 ・国際文化科を設置する学校として全校的に「総合的な探究の時間」の充実を図り、課題発見・解決する資質・能力を育むための学びを更に充実していく。 ・リーディングGIGAハイスクール指定校の経験とネットワークを生かし、校内研修や情報交換を一層進め、1人1台端末を積極的に活用した授業実践の深化をめざし公開授業や授業研究を推進する。 これらの取組み等により、令和10年度以降、学校教育自己診断（以下「自己診断」という。）における「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率90%（R5 89% R6 86% R7 89%）とともに、授業アンケートにおける満足度3.4以上をめざす。（R5 3.34 R6 3.34 R7 3.39） （※「満足度」：授業アンケート「問8 授業内容に興味・関心を持つことができた」「問9 知識・技能が身に付いた」の全教員の評価平均（4点満点）） (2) 夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路保障体制をさらに充実させる。 ・最後まで目標に向けてチャレンジする生徒を育てることにより、令和10年度には現役生の国公立大学合格者10人以上をめざす。（R5 5人 R6 3人 R7 6人） ・生徒支援体制を一層充実させ、自己診断における「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率を令和10年度90%以上に。（R5 83.3% R6 84.9% R7 90.2%） ・「総合的な探究の時間」においてSDGs課題研究・キャリア教育・人権教育・国際理解教育等を体系的に実施し、課題を発見し解決する力を育成するとともに、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成に努める。自己診断における「総合的な探究の時間（枚方未来学）は自分の成長に役立っている」（R5 81.2% R6 80.4% R7 83.4%）の肯定率を令和10年度に85%以上とする。 2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現に向けて (1) 学校行事の充実、部活動の活性化を図る。 ・学校行事での主体的な取組みを支援し、自己診断における「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率、令和10年度90%以上を維持する。（R5 92.0% R6 92.2% R7 96.3%） ・部活動加入率について、令和10年度に80%を達成するとともに、一層の増加をめざす（R5 75.1% R6 75.0% R7 74.6%） (2) 生活規律を確立させる取組みを充実させる。 ・遅刻者数の年間1,000未満を維持し、さらなる減少に向けて、令和10年度に向けて指導を継続していく。（R5 435人 R6 477人 R7 447人） ・制服の着こなし等、身だしなみに関する指導、携帯電話やICT機器の使用に係る指導、自転車の乗車マナーを含めた交通安全指導の充実を図る。 3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて 令和4年度「学校経営推進費」事業による「枚高で未来をひらこう ～Global Learning Hall から世界に羽ばたけ枚高生～」の計画（視聴覚教室のリノベーションによるグローバル人材の育成の推進）を引き続き実施する。 (1) 将来グローバル社会で活躍できるよう英語の4技能（「聞く・話す・読む・書く」）を総合的に育成する授業づくりを推進し、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。 ・大学等の協力を得ながら、英語暗唱弁論大会を充実し、「インターナショナルフェスティバル」「LETS合同発表会」等に積極的に参加し、令和10年度には自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率95%以上（R5 92.8% R6 90.1% R7 94.7%）とする。 ・英語検定、英語学力調査等の受検を推奨するとともに、準備講習等を計画的に実施し、令和10年度の国際文化科卒業時には英検2級合格80%以上、準2級合格100%とする。 (2) 国際文化科を設置する学校として、全校的に国際交流・異文化理解教育のさらなる活性化、SDGsに関する課題研究等の充実を図る。 ・国際文化科において、3年間を通じたSDGs課題研究及び国際交流・異文化理解教育の取組みを充実させるとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を育成し、世界規模で考え、自ら考え、調べ、行動、発信できる力を養う。さらに取組みとその成果を普通科とも共有し、令和10年度には自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率を95%以上（R5 93.6% R6 94.7% R7 93.8%）とする。 ・ユネスコ・スクールとしての取組みについて、生徒会執行部や複数のクラブが主体的に関わっていける活動となるよう推進していく。 4 教員組織体制の強化と教育環境のさらなる整備 (1) 広報活動の強化。 ・学校外諸機関との連携や渉外及び校内調整、また本校の魅力、スクール・ミッションやスクール・ポリシー（グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）等の情報を積極的に発信するため、中学校訪問・学校説明会等のさらなる改善や情報提供を組織的に行う。 (2) 教育環境の整備と業務の効率化の促進を図る。 ・ICT機器の活用を推進するとともに、オンライン等による授業や情報発信・情報収集を積極的に行う。 ・校務運営について業務の見直し、ICTの活用による会議運営や情報共有等の業務の効率化や生産性の向上を進めるとともに、業務縮減を図る。 ・部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適切な指導・運営体制を構築するとともに、ゆとり週間等の取組みを通じ休暇を取得しやすい環境を整備する。 ・多様な教育ニーズへの対応が求められる中、生徒・保護者・教職員が相互に共感的・協調的に教育活動と学校運営が推進できる関係性・場づくりに努める。 ・DXハイスクール事業により整備した教育環境を生かし、上記1から3に掲げた目標と共に「主体的・対話的で深い学び」「協働性・創造性を生かした探究的な学び」「本校の教育実践を生かした国際交流や地域交流」を通じ、デジタルテクノロジーも活用した生徒の資質能力の向上、自己有用感や自信の醸成を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和8年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現	(1) 全教員の授業力向上	ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を行い、授業アンケートの結果について、全教員が真摯に受け止め、更なる改善に向けて取り組む。 イ 教科内だけでなく教科を越えた教員相互授業の見学や他校等の先進的な実践を視察する機会を活用し、ICT の活用やグループ学習などの研究・研修の充実に努める	ア 授業アンケートにおける「満足度」3. 40 をめざす[3. 39] イ 教科内だけでなく教科を越えて授業見学など実施することで、自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率 90%以上にする。[88. 8%]	
	(2) 夢と志を持った生徒の育成、進路保障体制のさらなる充実	ア・家庭学習を含めた学習指導のあり方について、教科・学年を越えて検討・実践を進め、生徒の更なる学力向上を図る。 ・調べ学習や言語活動を充実させるため読書活動を推進する。その際、教科や生徒委員会による図書館を活用した学習や活動を充実させる。 イ 学習指導、進路指導の充実・改善に外部模試等を全員対象とし積極的に活用する。また、各担任の進学指導スキルの一層の向上を図るための研修等を計画的に実施する。 ウ・「生徒支援委員会」「人権教育推進委員会」「帰国・渡日生連絡会」「学年会」等での情報共有を密にし、保健室や生徒相談室等の機能を生かす。 ・SC や関係外部機関との連携を進め、個別の課題等を抱える生徒への支援体制を充実させる。 ・いじめ、ハラスメントに関するアンケートの実施及び面談を充実させる。 エ・キャリア教育・人権教育・国際理解教育の一層の充実に向け、教員自らが研鑽を積む機会として、外部講師等の活用など、これまでの実践を継承・発展させる。 ・「総合的な探究の時間」での SDGs に関する研究等を通じ、課題を見つけ探究し、解決し、発表・発信する能力を育成する。 ・全ての教科・科目の授業で「探究的な学び」を更に深めることができるよう、それぞれの領域や単元、教材の内容に応じて、テーマ、本質的な問いを整理し明確にする。	ア・「学力生活実態調査」における生徒の平均家庭学習時間を平日 60 分以上、休日平均 90 分以上に[1 ・ 2 年平均平日 37 分、休日 59 分] ・「多読賞」「POP 制作」「音声紹介」等の充実 貸出冊数、総数 400 冊以上 (387 冊) 授業・講習等総時間 300 時間以上 (277 時間) イ・「学力生活実態調査」「B 2 ゾーン」以上の生徒割合 2 年生 (2 回め) 50%以上をめざす。[37. 6%]。 ・現役生国公立大 5 人以上かつ関関同立 70 人以上の合格をめざす。 [国公立 6 人、関関同立 82 人] ウ・自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率 90%以上を維持。[90. 2%] ・「いじめについて真剣に対応」の肯定率 90%以上の維持。[94. 5%] ・自己診断(保護者)「保護者の相談に適切に対応」の肯定率 85%以上の維持。[90. 4%] エ・自己診断「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」[97. 3%]、「人権について学ぶ機会がある」[97. 4%]の肯定率 90%以上の維持。 ・ 4 月当初に具体的な学校目標を提示。目標設定面談時に確認。 授業観察で確認の上、振り返りで再確認。 年度末の達成状況を基に次年度に繋げる	
2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現	(1) 自治活動及び学校行事の充実、部活動の活性化	ア・生徒の自治活動を充実させ学校活動の活性化を推進する。 ・「ノークラブデー」を実施し、部活動の活性化と効率化及び学習との両立をめざす。 ・行事の魅力化に向け、文化祭や体育祭、学年行事等について生徒会や関係生徒が主体的に企画・運営できるよう支援する。 ・生徒の主体的な参画を促進、応援することで自治活動の充実につなげる。	ア 自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率の向上。[90. 1%] ・自己診断「学習と部活動の両立を大切に する雰囲気がある」の肯定率の向上。 [87. 4%] ・自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、 意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率 90%以上の維持。[96. 3%]	
	(2) 生活規律を確立させる取組み	ア・生活規律を重視する指導を明確化し、生徒が自律的に場に応じた身だしなみや行動ができるよう指導する。 ・指導に際し、生徒・保護者の一層の理解を得るとともに、規則について再確認を行いながら教員間の共通理解と組織体制の充実を図る。 ・生徒が意見を表明する機会を確保するとともに、意見の尊重を図りながら生徒の状況に応じた指導の工夫と改善につなげる。 ・遅刻指導、服装指導、頭髮指導について継続する。 イ・交通安全指導、薬物乱用防止教育を充実させる。 ウ・SNS の正しい理解、携帯電話の使い方等について、PTA と連携して講演や研修を行うなど情報リテラシーや倫理観に関する啓発と指導を行う。	ア・年間総遅刻者数 1, 000 人未満維持[447 人] ・指導の工夫・改善、規則の見直しについては、生徒から意見を聴取する機会づくりなどを通じ、自治活動の尊重の視点から組織的・計画的に行う。 ・自己診断「指導に納得・共感」の肯定率の向上。[生徒82. 3%、保護者86. 5%] イ・交通安全及び薬物乱用防止について、それぞれ講演を実施し、指導の充実を図る。 ウ・自己診断「情報リテラシー」の肯定率80%以上。[88. 9%] ・PTA と連携した啓発活動を行うなど、生徒・保護者・教職員が一体となって取り組めるような機会を創る。	

3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現	(1) 英語 4 技能の育成とコミュニケーション能力・プレゼンテーション力の伸長	ア 英語 4 技能の育成を進めるため、指導の工夫を行うとともに、国際文化科 1・2 年生に対して英検等外部検定の受験を推奨する。 イ・大学や関係機関との連携を生かし英語暗唱弁論大会の更なる充実を図る。 ・GL ホールや DX ハイスクールで整備した機器等を活用し、発表内容の充実、プレゼンテーション能力の向上を図る。 ・ポスターセッション等の実施を踏まえ「インターナショナルフェスティバル」「LETS 合同発表会」等へ積極的な参加を促す。	ア・英語外部検定受験を推奨し、英検については国際文化科全員受験を実施する。 卒業時の 2 級合格 60%以上、準 2 級合格 85%以上[38%、62%]。 イ・自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率 95%以上を維持。[94. 7%]	
	(2) 国際文化科設置校としての取組みの充実・国際交流活動の更なる充実	ア オンラインを含む海外交流や海外研修の推進を図る。 イ 異文化理解の推進に向けて、近隣の大学等との連携を生かし、外部講師等を活用した講演やゲストティーチャーによる授業等を各学年で実施。 ウ ボランティア活動やあいさつ運動ユニスコ・スクール等の取組みについて、生徒会と関係クラブ等が連携できるよう支援する。また、活動成果等を学校全体で共有しその輪を広げていく。	ア・オンラインを含む国際交流や海外研修を合わせて年間 10 件以上実施する。[12 件] イ・自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率 90%以上の維持。[93. 8%] ・近隣の外国語大学との対面・オンライン交流を 2 回以上実施する ・「姉妹校交流支援事業」に向けて組織的・計画的に取組みを進める。 ウ・自己診断「他の学校や地域の人と交流する機会がある」の肯定率の向上。[79. 9%] ・GL ホールや DX ハイスクールで整備した環境も生かして交流活動を更に充実させ、新たな活動を 2 件以上実施する。	
4 教員組織体制強化と環境整備	(1) 広報活動の一層の充実	ア・広報機能の更なる充実を図り、学校説明会の活性化や中学校等が主催する進学説明会へ積極的に参加する。 ・説明等に生徒がより一層関わることで本校生徒の活躍を伝え、学校への理解を深める。 イ・学習支援クラウドサービスの活用等により、保護者への情報発信を充実させる。 ・学校ホームページの内容の精選と適宜更新を図る。 ・公式 SNS や動画配信サービスの充実を図り広報の充実を図る。	ア 学校説明会の参加者数 1, 500 人以上の維持。[1520 人] イ 自己診断保護者「枚高の学習支援クラウドサービスによる連絡は役立っている」の肯定率 90%以上。[93. 4%]	
	(2) 教育環境のさらなる充実	ア・ICT 機器の授業での活用を組織的に進めるため、環境の改善や充実に努める。 ・PTA「部活動支援基金」による中庭の芝生化に伴い、教職員と生徒が協同して維持管理を行うことで、憩いと活動の場として保全と活用を進める。 イ・会議でのプロジェクター活用、新システムを含む校内イントラネット、教員のタブレット端末の活用等により、会議資料ペーパーレス化・効率化を一層推進する。 ・各種会議、委員会において、各教員が共通の情報の元、意見交換を行うとともに全般の効率化により時間短縮を図る。 ウ・多様な教育ニーズへの対応が求められる中、全ての教育活動及び指導の中で、生徒の主体性や創造力、自己肯定感を高められるよう「生徒の安全・安心、自信の醸成」の実現により一層取り組む。 ・その実現に向け、生徒・保護者・教職員が相互に共感的・協調的な「対話」を通して理解を深め、取り組めるような関係性と場づくりに努める。 ・国や大阪府の様々な教育改革等にも対応できるよう、必要な PT を立ち上げるなど計画的・組織的な運営を推進する。	ア・DX ハイスクールで整備した食堂（GCL 1）を活用した活動を 2 件以上とする。 ・会議室（GCL 2）を活用した授業を 4 教科・科目以上とする。また、生徒の自学自習にも活用できるようにする。 ・教員の活用率の 95%以上維持。（自己診断「教員の ICT 活用」[100%] イ・年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする〔7 人〕。 ・年間時間外在校等時間が 360 時間超の人数を前年度より減少させる〔20 人〕。 ウ・自己診断教職員の肯定率の向上 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」75%以上。[83. 3%] ・「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」85%以上を維持。[94. 4%] ・自己診断保護者の肯定率の向上 「PTA 活動が活発である」80%以上を維持。[86. 1%] ・自己診断生徒の肯定率の向上 「先生は生徒の意見を聞いてくれる」80%以上を維持。[88. 1%]	